**「新たな始まり」   2016 08 21**

**Luke 13: 10-170 Pr. H. Adachi**

主の恵みと平安が人々の心にしみわたりますように

自分の過去、あるいは体のことで、なにか恥ずかしい思いや心配事になったことはあるだろうか？　私には、思いあたることがある。

中学生の頃から、姿勢が悪いということを言われだしていた。大学生になったときの健康診断で、あなたは側弯症だといわれた。それは背骨がまっすぐではなく、レントゲンを見せられ、かなりショックだった。

まだまだ、デートもしたいし、結婚できるだろうかとか、背骨が曲がっていくのではないかとかいろいろ気になってきた。　背骨が曲がっている恥も感じた。

与えられた聖書に入っていきたい。　安息日に会堂で教えていたイエスは、18年もの間、病の霊にとりつかれ、腰が曲がってまっすぐにできない女性をみつけた。　腰がまっすぐではないことから、社会活動では阻害されたり、彼女自身も恥ずかしい思いもあったのではないかと想像する。

イエスは、彼女の上に手を置き、癒した。　すると曲がっていた腰はまっすぐになり、治ってしまう。

それを見ていた、会堂長は、機嫌が悪い。女を癒すのはよいが、安息日はいけない。　ユダヤ教の指導者たちは、イエスの安息日の行いに納得がいかない。

しかし、イエスは、彼等に向かって言う。　「安息日であろうが、あなたがたはつながれているロバや牛をほどき、水をあげにつれていくではないか。　この女性は、１８年もの間、悪霊にしばられていたんだ。安息日であっても、当然、悪霊のしばりからほどいてやるべきではないか。」と諭す。

与えられたイエスの行いは、神の愛にもとづいた行いであり、安息日の既定をはるかに上回る行いだった。悪霊にとりつかれていた女は、安息日に癒され、まったく新しい人生の始りを迎えることができた。

さて、会堂長やユダヤ教の指導者たちは、彼等が恥じ入る経験をしてしまう。　しかし、イエスの語られた言葉によって、ユダヤの指導者たちにも、これは、新しい始りになっていったのではないかと思う。もちろん、当時のユダヤ教の信仰者たちの中に、キリストに従う者が出て、12弟子はみなユダヤ教徒だった。キリスト教はそのコアにある人々は元々はユダヤ教徒たちによって発展した。

キリスト教はもちろん、ユダヤ教の伝統をひきついで、わたしたちが読む旧約聖書の最初の５巻は、はユダヤ教のTorahと呼ばれ、聖典である。本日の第一日課では75歳にもなったアブラハム(当時はまだアブラムという名だったが)に神は突然、荷物をまとめて、主の示す土地へ行くようにという、とてもびっくりするような言葉を述べる。この話は、キリスト教でもユダヤ教でも、正典としている話だ。しかし過去2000年の間に、律法を重んじ続けイエスを救い主と認めないユダヤ教と、キリスト教には、深い溝ができてしまったことはいなめない。

しかし、とくに過去50年のカトリック教会と正統的ユダヤ教指導者の話し合いの成果により、去年末に、正統的ユダヤ教の指導者たちによって、キリスト教の価値を認め、これまでの溝を大きく埋めるかのような文書が発表された。そこにはイエスが意味があって生まれてきたことや、これからのキリスト教とユダヤ教との協力関係も明示されている。実は2000年前に話されたイエスの言葉に、正統的ユダヤ教指導者への、新たな解放への始りがあったのだと思う。

今日の御言葉、腰の曲がった女性が安息日に癒された話は、ユダヤの指導者にも、また現代を生きる私たちにも大きなはげましをあたえ、束縛から解放へ、苦しみから励ましへ、悲しみから喜びへ、弱さを恥じる歩みから、弱さを誇りにさえ変えてくださる、新しい始りに導かれる。

日本に水野源三というキリスト教徒の詩人がいる。　1937年に生まれ、戦後に赤痢にかかり、瞬きをする以外には、体を動かせなくなった。

12歳の時にある牧師が聖書を渡された。母親にページをめくってもらって、聖書を読みだし、また牧師も訪問してくれた。

母親は、日本語の50音の言葉を発するなかで、源三のまばたきの反応によって、彼が何を言いたいかをわかるようになる。　そして、源三は、詩を表現できるようになった。その詩は多くの日本人への感動を与えている。「悲しみよ」という詩、ひとつ紹介したい。

悲しみよ悲しみよ 本当にありがとう

お前が来なかったら つよくなかったなら

私は今どうなったか

悲しみよ悲しみよ お前が私を

この世にはない大きな喜びが

かわらない平安がある 主イエス様の

みもとにつれて来てくれたのだ

はじめに側弯症の話をしたが、振り返ると曲がった背骨を毎日運んでいることは、私を、イエスに近づけ、十字架に架かって死んでも復活されてイエスがともにいてくださることを実感しやすくしているように思う。

神の存在とその愛は、私の生活で感じる心配や悩み、それは一見、私たちの悲しみや弱さなのだが、逆にそれによって、強められ、新しくさえしてくださる。　アーメン